（別紙4）　　平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3611510227		
法人名	医療法人十全会		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地（088－672－1022）		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成24年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が毎日の生活をゆとりのある環境のもと、張りあいや喜びをもって過ごすことができるよう支援している。利用者一人ひとりの得意分野で力を発揮してもらえるように、職員は関わりをもって支えあっている。また、畑では、職員とともに、季節の野菜や花等の種をまき、水やり・草取り・収穫等を行っており、自然に触れる機会をもつよう努めている。利用者の馴染みの人や地域住民の来訪がある。利用者が居心地よく過ごすことができるよう明るい雰囲気づくりを心がけている。事業所の理念である“笑顔・誠意・信頼・地域の中で、信頼を築くはなみずき”をもとに、職員はより良い支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、同一法人の医療機関の敷地内に立地する木造2階建の建物となっている。玄関には、はなみずきの木が植えられている。医療連携体制の充実を図ったり、多目的ホールを配置したりしている。法人の主催により、様々な芸能やスポーツの行事を開催し、地域の人々とともに楽しんでいる。管理者は、職員の教育に力を入れている。職員は、年間計画にそって法人内・外の研修に参加し、サービスの質の向上を目指している。年間の目標を立て、自分の役割を理解し、利用者が安全に過ごすことができるよう支援している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき1階 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスの目的を盛り込み、運営上の方針や目標を具体化し、理念を共有し実践している。	全職員が地域密着型サービスの意義を理解している。毎朝の申し送り時に、理念や今年の目標を確認しあって共有し、日ごろの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入し、地域の祭りの際には御輿が来ている。また、地元中学生の、職業体験学習を受け入れたりして、交流に努めている。	法人主催の納涼祭やスポーツイベント、芸能ショー等を開催し、地域の人々を招待している。自治会に加入して敬老会に参加したり、お祭りの神輿を迎え入れたりして、地域との交流を大切に捉えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえて、地域の高齢者の暮らしに役立つ事はないか話し合っている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告、連絡、相談事項を協議し、利用者の処遇、環境改善に繋げるよう、実践している	運営推進会議では、事業所の状況報告や意見交換を行っている。しかし、全職員に対して十分な議事等の伝達を行うまでには至っていない。	全職員で運営推進会議での具体的な議事内容を共有するなどして、サービスの質の向上に活かすよう努められたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機械などに、市町村担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズの具体を伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	直接、町担当窓口を訪問し、ヒヤリ・ハット事例や入・退居等の報告を行っている。担当者との協力関係の構築に向け取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	研修会を受講するなどして、全職員が身体拘束の内容とその弊害について理解している。点滴を行う際には職員が付きそうなど、安全に配慮しつつも拘束の無い自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、勉強会やミーティング等を実施し、虐待とは、暴力的な行為だけでなく、暴言や無視、心理的虐待、必要なケアの放棄等が含まれる事を理解し、周知徹底している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき1階 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会を開き理解を深めるようにしている。また、社会福祉協議会が主催する成年後見制度の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約をする際は、文章と口頭で十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に公的な苦情相談窓口があることを紹介している。意見箱の設置を通して、より多くの相談や苦情を出して貰える配慮をしている。	家族の来訪時に話しやすい雰囲気づくりに留意している。また、出された意見や要望等について関係者間で話しあって運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を聞く機会をもったり、意見を言いやすくする等、工夫をし、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。	責任者は、日ごろから職員の要望や意見を聞き、月2回の法人の運営委員会で報告している。管理者は、職員の意見や提案を運営面に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の資格修得に向けた支援を行い、職員個々の努力ら実績、勤務状況」を把握し、各自が向上心を持って働けるように、働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講出来るようにしている。また、研修報告は、すべての職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は、他のグループホームや事業所との交流、また、交換研修を通じて、一緒に学んだりサービスの質の向上に励んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき1階 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、本人の思いや不安を受け止め、安心してもらうことから始め、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族等の立場に立って、家族等の気持ちを受け止めたり、家族等の声に耳を傾けたりしながら、関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に、家族と同じような思いで、支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長線上であるよう、地域に暮らす馴染みの知人、友人等が、訪問してくれたり、電話連絡を取り持ったり、継続的な交流が出来るように働きかけている。	職員は、家族と相談したうえで利用者の馴染みの美容院への付きそいや家族宅での外泊等を支援している。これまで大切にしてきた人や場所との関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、利用者同士の助け合いや、気持ちの支え合いが出来るように配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき1階 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかい連携を心がけている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情等から、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者の暮らし方の希望や意向は、入居時の段階で担当者が中心となって関係者から情報を得ている。日ごろの関わりのなかで、表情や行動に関心を払って意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、考え方に関する情報を、本人とその家族、その人の昔をよく知る人から教えてもらい、本人の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を理解しており、不安や混乱が見られる時は十分に話を聴き分かりやすく説明し、安心して過ごせるような関わり方をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を本人、家族、必要な関係者と話し合い、すべての職員の気付きや意見を探り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる。	家族や関係者の意見を念頭において職員間で話しあい、3か月ごとに介護計画書を作成している。また、1か月ごとにモニタリングを行い、本人や家族の要望や状況の変化等に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の日々変化する状況や要望に応じて、必要な時に、必要なサービスを、臨機応変に提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき1階 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア（子ども神輿、大人神輿）中学校職業体験学習等は今後も継続して受けられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が、馴染みの医師による、継続的な医療を受けられるよう、また、状況に応じて、本人や家族が希望する医師による、医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化などに気付いたことがあれば、直ちに、看護職に報告し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療出来るように家族等と相談しながら、病院関係者に対して、本人に関する情報の提供やケアについて話し合い、早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心して納得した終末期が迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる。	本人や家族の意向を確認し、医師の診断にもとづいて関係者間で話しあいを重ね、安心して終末期を迎えることができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我、骨折、のど詰まり、意識不明等の対処方法、緊急時対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年二回利用者と共に避難訓練を行っている。また、消防職員の立会いの下、指導を受けながら、防火、防災訓練等を行っている。また、緊急時通報システムの設備がある。	消防署の協力を得たうえで、定期的に避難訓練等を実施している。年1回、全職員で防災センターに出かけ対応方法などを学習している。	

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき1階 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まずは、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉がけをするように努めている。	利用者の人格を尊重し、一人ひとりに応じた声かけや対応を心がけている。利用者の呼称にも留意している。トイレ誘導の際には、プライバシーを損なうことの無いよう十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者と過ごす時間を通して、利用者の希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中で、本人が選びやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのスペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンデション、様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ、汚れ等に対してプライドを大切にして、さりげなくカバーしている。身だしなみを、本人の自己表現の一つとして、本人の好みで、整えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や味付けについての会話をしたり、利用者と一緒に取ってきた畑の野菜を使って、一緒に調理をする事によって、楽しく食事ができるように、雰囲気づくりも大切にしている。	利用者と職員は、同じ食卓を囲んで食材や味つけなどの会話を楽しんでいる。また、利用者と職員で栽培したさつまいも等を収穫し、ともにおやつをつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが、一日を通して栄養や飲水量が、どの程度取れているのか、おおよその量を、職員全員が常に意識しながら関わっている。また、一人ひとりの状態や、力に合わせた調理方法や味付けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛け、見守りをし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行う等、本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき1階 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を可能にする為に、行きたい時にトイレに行くことが出来るよう、本人に合わせて、紙パンツ、パット類を検討している。	立位や座位の困難な利用者以外には、排泄チェック表を活用して些細な表情や動作等から察知している。さりげないトイレ誘導やポータブルトイレを活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、排便チェックを行い、牛乳やヨーグルト等で十分な水分補給と繊維質の多い食材の提供に心がけている。また、腸の動きを良くする為に、散歩も誘っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認し、入浴して頂いている。入浴を拒む方に対して、言葉がけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。	利用者一人ひとりの希望に応じて、毎日入浴できる体制を整備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながら、おしゃべりをする等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身状態の変化があれば、その情報を医師に伝え、必要に応じて処方内容の見直しが適切に行えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願い出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごと(初詣、みかん狩り等)に合わせて戸外に出かけられるよう、支援に努めている。歩行困難なケースでも、車や車椅子等を利用して、戸外へ出られるように、支援している。	家族の協力を得たうえで、初詣や花見、みかん狩りなどの季節に応じた外出を計画的に楽しんでいる。日ごろから、買い物に出かけたり、近隣の公園を散歩したりしている。また、通院時にまわり道をするなどして、外気に触れる機会を大切にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき1階 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族が戸に様々な意向を持っているが、本人の安心や満足に向けて小額でも所持金を持って頂けるように家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は、安らぎ、居心地良く過ごせるように、また、自宅の延長として、自分の力で、その人らしく過ごせる場、居心地の良い場となるよう配慮している。	リビングは日当りがよく、利用者の手芸品や絵画、俳句等を飾っている。机や椅子、柔らかいソファを設置している。また、塗り絵やテレビ鑑賞などを楽しみつつ、思い思いにくつろぐことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、ソファ、椅子等を置き、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、寝具やタンス、など持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	利用者は、居室の洗面台を活用してそれぞれのペースで口腔ケアや整容等を行っている。利用者一人ひとりの馴染みの家具や仏壇等を持ち込んでもらっている。家族と職員間で相談し、その人らしく過ごせるよう環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスの目的を盛り込み、運営上の方針や目標を具体化し、理念を共有し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入し、地域の祭りの際には御輿が来ている。また、地元中学生の、職業体験学習を受け入れたりして、交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえて、地域の高齢者の暮らしに役立つ事はないか話し合っている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告、連絡、相談事項を協議し、利用者の処遇、環境改善に繋げるよう、実践している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機械などに、市町村担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズの具体を伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、勉強会やミーティング等を実施し、虐待とは、暴力的な行為だけでなく、暴言や無視、心理的虐待、必要なケアの放棄等が含まれる事を理解し、周知徹底している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会を開き理解を深めるようにしている。また、社会福祉協議会が主催する成年後見制度の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約をする際は、文章と口頭で十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に公的な苦情相談窓口があることを紹介している。意見箱の設置を通して、より多くの相談や苦情を出して貰える配慮をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を聞く機会をもったり、意見を言いやすくする等、工夫をし、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の資格修得に向けた支援を行い、職員個々の努力ら実績、勤務状況」を把握し、各自が向上心を持って働けるように、働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講出来るようにしている。また、研修報告は、すべての職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は、他のグループホームや事業所との交流、また、交換研修を通じて、一緒に学んだりサービスの質の向上に励んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、本人の思いや不安を受け止め、安心してもらうことから始め、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族等の立場に立って、家族等の気持ちを受け止めたり、家族等の声に耳を傾けたりしながら、関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に、家族と同じような思いで、支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長線上であるよう、地域に暮らす馴染みの知人、友人等が、訪問してくれたり、電話連絡を取り持ったり、継続的な交流が出来るように働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、利用者同士の助け合いや、気持の支え合いが出来るように配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかい連携を心がけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情等から、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、考え方に関する情報を、本人とその家族、その人の昔をよく知る人から教えてもらい、本人の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を理解しており、不安や混乱が見られる時は十分に話を聴き分かりやすく説明し、安心して過ごせるような関わり方をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を本人、家族、必要な関係者と話し合い、すべての職員の気付きや意見を探り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや利用者の状態変化は、個々のケ　ア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の日々変化する状況や要望に応じて、必要な時に、必要なサービスを、臨機応変に提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア（子ども神輿、大人神輿）中学校職業体験学習等は今後も継続して受けられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が、馴染みの医師による、継続的な医療を受けられるよう、また、状況に応じて、本人や家族が希望する医師による、医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化などに気付いたことがあれば、直ちに、看護職に報告し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療出来るように家族等と相談しながら、病院関係者に対して、本人に関する情報の提供やケアについて話し合い、早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心して納得した終末期が迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我、骨折、のど詰まり、意識不明等の対処方法、緊急時対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年二回利用者と共に避難訓練を行っている。また、消防職員の立会いの下、指導を受けながら、防火、防災訓練等を行っている。また、緊急時通報システムの設備がある。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まずは、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉がけをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者と過ごす時間を通して、利用者の希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中で、本人が選びやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのスペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンデション、様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ、汚れ等に対してプライドを大切にして、さりげなくカバーしている。身だしなみを、本人の自己表現の一つとして、本人の好みで、整えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や味付けについての会話をしたり、利用者と一緒に取ってきた畑の野菜を使って、一緒に調理をする事によって、楽しく食事ができるように、雰囲気づくりも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが、一日を通して栄養や飲水量が、どの程度取れているのか、おおよその量を、職員全員が常に意識しながら関わっている。また、一人ひとりの状態や、力に合わせた調理方法や味付けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛け、見守りをし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行う等、本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を可能にする為に、行きたい時にトイレに行くことが出来るよう、本人に合わせて、紙パンツ、パット類を検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、排便チェックを行い、牛乳やヨーグルト等で十分な水分補給と繊維質の多い食材の提供に心がけている。また、腸の動きを良くする為に、散歩も誘っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認し、入浴して頂いている。入浴を拒む方に対して、言葉がけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながら、おしゃべりをする等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身状態の変化があれば、その情報を医師に伝え、必要に応じて処方内容の見直しが適切に行えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願い出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごと(初詣、みかん狩り等)に合わせて戸外に出かけられるよう、支援に努めている。歩行困難なケースでも、車や車椅子等を利用して、戸外へ出られるように、支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームはなみずき2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族が戸に様々な意向を持っているが、本人の安心や満足に向けて小額でも所持金を持って頂けるように家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は、安らぎ、居心地良く過ごせるように、また、自宅の延長として、自分の力で、その人らしく過ごせる場、居心地の良い場となるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、ソファ、椅子等を置き、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、寝具やタンス、など持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している		